伝統とアイデアが紡ぐ革新

穂高天蚕糸（てんさんし）

天蚕産業発祥の地 安曇野。穂高有明地区では、２００年以上前から受け継がれてきた天蚕産業の伝統が大切に守り続けられています。天蚕文化を発展させていくための新たな取り組みを紹介します。

江戸時代から続く伝統 天蚕

桑の葉を与え室内で飼うカイコを「家蚕（かさん）」と呼ぶのに対して、屋外で飼育する絹糸昆虫を「野蚕（やさん）」と言います。天蚕は、ヤママユガと呼ばれる野蚕の仲間で、緑色の繭を作ります。天蚕の繭から採れる糸は、独特の光沢と優美な風合いを持ち、その希少性から「繊維のダイヤモンド」と呼ばれています。

江戸時代、先人たちは北アルプスの麓の広大なクヌギ林で見つけた緑色の繭の美しさに魅せられ、野蚕の飼育を始め、試行錯誤の末に糸が採れるようになったことで天蚕の産業が根付きました。安曇野は、天蚕発祥の地なのです。

ヤママユガの幼虫

ヤママユガの繭から糸を採ります

採った糸を紡いだ天蚕糸

新たな視点で魅力発信を

天蚕糸の魅力を、日本、そして海外の人たちにも知ってもらおうと、市や観光協会、商工会などで組織する安曇野市海外プロモーション協議会では、本年８月から服飾系専門学校の学生たちと協力し、新商品の開発に向けたプロジェクト「Silk Idea（シルクアイデア） Competition（コンペティション） -TENSAN（てんさん）- 2022 in AZUMINO」をスタートしました。

このプロジェクトでは、東京都・大阪府・福岡県から集まったアパレルデザインを専攻する学生10人が２人１組のグループに分かれ、それぞれが天蚕の魅力や課題を踏まえた上で、商品提案から試作品の作成までを目指し、ビジネスプランの企画造成を行います。

夢に向かって 学生たちの挑戦

８月３日から、プロジェクトの初回となる交流体験が３泊４日の日程で行われ、学生と天蚕振興会、市職員が初めて顔を合わせました。

自己紹介で参加動機を聞かれた学生たちからは、「生地に興味がある。天蚕を使ったオリジナルブランドを立ち上げたい」、「学生のうちからビジネスに携われる絶好の機会。地域素材をアパレルに活用して産業を盛り上げたい」など、地域資源の活用と自身の夢への挑戦に意欲を燃やしていました。

学生たちは、天蚕の特徴や課題、歴史などを学んだり、市天蚕センターの飼育林で繭の収穫体験や糸ができるまでの工程を見学したりして、商品開発のイメージを膨らませました。

温故知新の発想が紡ぐ糸口

交流体験を経て自身のプロデュースする商品の方向性をつかんだ学生たちは８月23日、オンライン会議を行いました。まずは交流体験で学んだことを復習し、グループ分けを行った後、提案するテーマが話し合われ、商品開発に向けて課題を整理しました。会議は来年２月までに13回行う予定で、学生たちはターゲット設定や市場調査、製造コスト、製造・販売方法などの話し合いを重ねていきます。

現在はブランド名やコンセプトが決まり、それぞれ考案したデザインが入った企画書を作成している段階です。提案の中には、ターゲットをクリエイティブな職業に就く30代女性に設定し、「生活のどのようなシーンでも着こなせ、洗練された女性らしさを表現できるような洋服に天蚕糸の活用を考えている」また、「海外向けのツアープランと着物をマッチングさせた商品提案を進めたい」などのプランが挙がり、学生自らが体験し得た感性を、柔軟な発想で商品に落とし込んでいます。

３月には審査会が行われ、優れた提案は商品化が検討されます。今後の動向にご注目ください。

問観光交流促進課 TEL71・2054

安曇野市天蚕振興会
会長　田口 忠志さん

伝統を守る自身の使命　次世代へ寄せる期待

天蚕糸は、安曇野が誇る産業です。第２次世界大戦で一度は天蚕の飼育が途絶えてしまいましたが、旧穂高町時代に再開され、現在も受け継がれた伝統が大切に守り続けられています。

技術革新が進み生活様式が変わり、和服から洋服へと人々が着るものも変化していったことで、天蚕糸の需要も減り、次第に伝統産業として扱われるようになりました。伝統産業は、誰かが一旦手を引いてしまえば消えてしまいます。私たちは、この伝統を守らなければという使命感を持って活動しています。

今回のプロジェクトで、学生たちが天蚕糸を使ってどのようなビジネスプランを提案してくるのか、非常に楽しみにしています。若い人ならではの柔軟なアイデアで、穂高天蚕糸の知名度向上や産業の発展につながっていくことを期待しています。

終わりではなく始まり

天蚕という素材を見たことも聞いたこともない状態で参加しましたが、この３日間でたくさんのことを肌で感じながら知ることができました。

生地を作ることがこんなに大変だと思わなかったし、天蚕がこんなに綺麗だとも思わなかったです。

この研修は終わりではなく始まりなので、思い出で終わることなく、今後の創作活動に活かし、安曇野の天蚕をたくさんの人に知っていただける、買っていただける商品を開発できるように頑張りたいです。

大阪文化服装学園２年　南 優海さん

知ることで世界が変わる

今回の安曇野での体験、天蚕について知ることができたことは自分にとってすごくプラスになることばかりでした。

蚕にも色んな種類がある中で、天蚕の魅力、良い所と悪い所を知ることができました。知ることで見る世界が全く変わりました。例えば、「ガ」を「チョウ」と同じような美しさで見ることができるようになったことです。それは羽化したのを見て、天蚕について学び、触ったことによるものだと強く感じました。この出来事、経験、魅力を今度はデザインに落とし、作品にすることで世の中に伝えなければならないと思っています。

香蘭ファッションデザイン専門学校２年
上村 英太郎さん